



# 【第47期初級陸曹特技課程「准看護師」卒業式】

令和6年3月7日

3月7日（木）、自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 本間1佐）は、北部方面総監部から医務官 小林1佐、人事部人事課長 村上1佐、防衛部訓練課長 園田1佐、真駒内駐屯地から北部方面衛生隊長 野澤1佐のご臨席を賜り、第47期初級陸曹特技課程「准看護師」21名（男性9名、女性12名）の卒業式を挙行了した。

卒業にあたり病院長（鈴木陸将）は、「昨年12月に戦略3文書が閣議決定され、自衛隊衛生においては、隊員の壮健性の維持に加え、有事における第一線から最終後送先病院までのシームレスな医療・後送態勢を構築し、救命率を更に向上することが求められている。

現在、事態対処時の前方における輸血治療、麻酔投与の態勢整備やダメージコントロール手術及び重症患者後送に関する教育課程の整備など、事態対処時の衛生支援態勢の確立がスピード感を持って進んでいるなか、我々衛生科隊員は、任務に邁進する隊員が負傷したならば、いつ何時、何処においても必ず救うことが最も重要な使命である。その時に、必ず仲間を助けるという強い執念と的確な知識・技術を使って、最善の行動が出来なくてはならない。諸官は今、部隊において第一線救護を中心となって担う、衛生救護陸曹としてのスタートラインにたっている。常に、この役割を全うするという透徹した「使命感」と准看護師の資格を持ったプロフェッショナルであるという「気概」を持って日々の任務に邁進し、これからは、自身で日々の努力を地道に積み重ねて自分自身の能力向上を図り、常にあるべき姿を求めて「進歩」し続け、仲間信頼される衛生救護陸曹に成長してもらいたい。」と訓示した。

准看護学院長（本間1佐）は、「医療現場は日々進化し、常に最新の技術や知識の習得のため生涯学習が必要です。患者を目の前にして瞬時に判断を求められることもある。それ故、強い使命感と責任感を持って、これからも真摯に職務に励み、そして、現状に満足せず、常に向上心を忘れず、ビジョンを明確に持ち、その達成に向けて努力を重ねることで日々前進し、その全ての結果として隊員から信頼される衛生救護陸曹になれるように努力を続けよう。」と式辞を述べた。

北部方面総監部医務官（小林1佐）は、「皆がここで学んだ知識と技術、さらに情熱や愛情がそのまま隊員の生死に直結する可能性があり、その自覚と覚悟をもって、これまで学んだ知識と技術をより高く磨いてもらいたい。」と祝辞を述べられた。

学生代表（渡邊3曹）は、答辞において、本教育間、病院長をはじめとするお世話になった病院職員への感謝を申し述べるとともに、「これからの勤務への抱負として、自衛隊札幌病院准看護学院の伝統に誇りを持ち、衛生救護陸曹としてより一層の努力と研鑽を続けて行きます。」と誓い、多くの病院職員に見送られ、それぞれの任地へ旅立った。

なお、病院長賞を細田3曹、学院長賞を川口3曹、岩本3曹、河野3曹がそれぞれ受賞した。



思いを胸に卒業式に臨む学生



病院長 訓示



卒業証書授与



准看護学院長 式辞



北部方面総監部医務官 祝辞



集合写真